第19回サバニ帆漕レース意見交換会

日時：平成30年11月26日　17時～

会場：那覇商工会議所2Fホール

参加者：事務局5名（敬称略）添畑薫、塩澤朋子、糸嶺直生、谷口洋基、高江洲英毅

　　　　参加チーム　7チーム10名

­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­­高江洲：「­これより第20回サバニ帆漕レースに向けての意見交換会を始めます。本日進行役を務めさせていただきます、座間味村の高江洲と申します。よろしくお願いします。始めに座間味村産業振興課の糸嶺より挨拶をさせていただきます。」

糸嶺：「皆様こんばんは。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。サバニ帆漕レースも早いもので来年が第20回、記念の大会になります。これも偏にご参加していただいている皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。今年のレースは安全対策GPSを活用し、誰でもスマートフォンでレース状況が見ることが出来るようになっており好評だったと聞いております。事務局といたしましても第20回記念大会に向けて更に安全で参加者並びに応援者に楽しんでいただけるレースを頑張っていこうと思っております。本日はこれまでの大会を振り返りながら皆様の意見を拝聴し、今後の大会運営の参考にさせていただきますのでよろしくお願いします。」

高江洲：「ありがとうございました。これより資料に沿って進めて行きたいと思います。まず来年の開催日時について、第20回サバニ帆走レースは平成31年6月29日がマリリンカップ、翌日6月30日日曜日が本レースの予定です。この日程について何か質問等あればお願いします。この日は中潮、29日は満潮が4時1分、干潮が10時45分です。30日は干潮が11時31分です。 」

参加者：「満潮は何時ですか」

参加者：「確認しておりませんがその6時間後ぐらいです。」

高江洲：「他に質問はありますか？無いようですので来年のサバニレースはこの日程で進めさせていただきます。続いて、今回からコースの中間地点を設けフィニッシュ地点も変更したのですが、その反省点等について実行委員の添畑から説明させていただきます。」

添畑：ボードにて図を示しながら説明。

「去年からフィニッシュの時間を出来るだけ合わせようということと、安全を確保するために、ハテ島に12時のゲートを作らせていただきました。ハテ島の東西を0度で見た延長線が12時、こういう風にサバニがセールを張って走ってきて、12時にここを通過しない船はそこから曳航でフィニッシュラインに向かって下さいというルールです。

今年のレースは良い風だったので全員通過出来ました。気付いたことですが、ここに我々のゲートを見る船を置くと、この辺りを走っていてもこのように来てしまうのです。この船は12時のゲートの時、沖に出て遠くから0度の見通し線で見て、サバニのコースを変えないように、こちらからタイムリミットをお知らせしますので、皆様はわざわざコースを変えず気にせず走ってきて結構です。それともう一つ、これは飛行場です。ここが赤灯台、ここが唐口です。ここが宮古口。今年はGPSを使って保安庁がずっと見てくれました。記録も残っているのですが、リタイアした船がこう入ってきたと保安庁からの連絡がありました。

リタイアして曳航で入ってくる場合も宮古口を通っていただきたいです。我々は宮古口を通る申請を取っていて、ここは船の行き来が多いので、リタイアした船も宮古口を通って入ってきて欲しいです。質問どうぞ。」

参加者：「海想チームのサポート艇をしている飯野と申します。チームに元管制官の者が居まして、現役の専門的な管制官にチェックさせた所、ここに滑走路があり、滑走路の端から30度でこの領域には入って行けないという法律があるのですが、ヨットの先が規制線にかかってしまうのです。」

添畑：「サバニのマストは4mぐらいですよね。」

飯野：「サポート艇が引っかかってしまうのでヨットは入れないのです。前回入っている船がありましたが管制官から言うと不味いそうです。」

添畑：「ここはギリギリで何mですか？」

参加者：「15mあるとかかります。ヨットが40フィートだと15mぐらいあるのでかかってしまいます。」

実行委員：「滑走路の終わりから30度ということですね。」

飯野：「詳しい情報が欲しければ管制官に聞いて提出します。少なくとも私の船は引っかかるので今回は仕方なくそちらから入りました。」

添畑：「エンジン付きの船はここに入るのは問題ないですが、サバニは航行不自由船になるのでこちら側から入りましょうというルールです。」

実行委員：「もしご迷惑で無ければ詳細情報をいただけますか？」

飯野「30フィートならギリギリかなという感じですが40フィートだと恐らくかかります。知り合いの管制官にいただけるよう頼みます。」

実行委員：「今日はこちらの発表は以上です。残りの時間は皆様のご意見を拝聴させてください。来年は20周年なので今までの記録映像や写真集、書き物でも残したいと思い、いろいろなことをスポンサーと交渉しながら、予算を取ってくれるようお願いしております。

20周年記念にこんなことをやってみたらどうかという意見があればお願いいたします。」

高江洲「事務局から、提出期限の厳守を今年もよろしくお願いいたします。今年は例年より早く申し込んでいただいて、手続きをスムーズに進めることが出来ました。来年は20回記念大会になることから参加艇が増える事が考えられます。手続きも増えて多忙になり、期限を過ぎてしまうと保険に入れないなどで追加料金がかかりますのでお願いします。」

実行委員「ライフジャケットについては保安庁の方も更に厳しくなると思いますので、着用の厳守をお願いします。来年こんなことがやりたいなど意見はありますか？10周年の時はビデオ、15周年のときは記念にお酒を造るなどしました。」

参加者「GPSシステムについて言及が無かったのですが来年もありますか？」

実行委員「もちろんあります。いいシステムですので来年も予算を取って行いたいと、スポンサーにお願いしてあります。来年は20周年ということで島の皆様が楽しんでいただけることの実施や、20周年を前に打ち出したポスターやTシャツのデザインを考えております。

また、フィニッシュ地点を変更して、皆様はうみそら公園の方に入って来ると、片付けや表彰式の準備などですごく忙しいと思いますが、那覇市と組んでもっと盛り上げたいなと思っています。もっと沢山の友達やご家族の方に来ていただいて応援して盛り上がっていただけるよう、力を入れていきたいと思います。

今年もあまり上手く回らず、我々があそこで出来ることは、GPSの返却や帰着申告、それと飲み物を配る程度しか出来ないですが。

今年はジェットの船でしたが、それでもなかなか乗りにくく、平底の船外機付きの和船があると、岸まで来られてありがたいので、そういう船を探します。

我々としては参加者の方は忙しいし疲れているので、いつも通りにやっていただいて、翌日翌々日ぐらいに元の場所に戻せるよう頑張っていますが、それについてこうした方がいいという意見は無いですか？表彰式は例年のように行いたいと思っています。

それとマリリンカップは本レースに出られない人のためや、危険性が比較的少ないので色々な人が楽しめるように、企画しているので、もっと多くの方がマリリンカップに出ていただきたいなと思っています。

我々が20年間の記録や戦前の中々手に入らない映像など手に入れているので、それらも見てもらって、サバニの最初に始めたポリシーを記録に残しておくことで、これが将来に続いていけばいいかなと思います。来年は昔出ていたけど参加しなくなった方など近くにいれば、声かけをしていただきたいです。10周年の時は45艇出ていました。今は世代交代などもあって40艇ちょっと切れるぐらいでそれでも十分ですが、20周年なので10周年を超える参加艇があったら嬉しいので皆様が色々な所に声かけしていただけると嬉しいです。

高江洲「何か質問等ございますか？」

参加者「沖縄のメディアをもっと呼べないですか？」

実行委員「呼ぶと一度は食いつくのですが…、やってくれないですね。」

参加者「琉球新報も沖縄タイムスも小さい告知を出すぐらいはしてくれるのですが、それぐらいですね。なかなかつながらない」

実行委員「先島の方は結構告知してくれますね。八重山日報などにこのチームが勝ちました、この写真が必要ですかとか、この人にインタビューしますかなど聞くとかなり大きくやってくれます。こちらが写真や記事も送れるからとアプローチしても琉球新報や沖縄タイムスはきてくれないですね。八重山日報や週刊新潮がやってくれたりはしています。」

参加者「ただ沖縄のメディアが必要ですね。」

参加者「沖縄のメディアが聞かないなら本土のメディアに言ってみてはどうですか？」

実行委員「本土の方が却って、みんな知っているという感じですね。」

参加者「テレビとかはどうですか？」

実行委員「NHKやTBSなどメジャーな局は特集を既にやってしまいましたが、20周年なのでもう一回ということは出来ると思います。」

実行委員「鉄腕DASHなどでもやったのですが、沖縄では放送時間が悪いですね。東京だと日曜日の7時だからすごく視聴率が高くて効果が高いです。DASH島の企画で前に使ったサバニが無いかと声がかかったのですが、台風の影響で壊れていて、渡すことが出来なかったんですが、それができたらサバニの認知度ももっと上がっただろうと思います。今は沖縄で日テレ系じゃない所が狙いどころかなと思って今交渉中です。また、沖縄のメディアにもアピールしたいと思っています。」

参加者「今宣伝のことを色々話していましたがポスターのことについてお伺いしたいです。いつもポスターはあのサイズなのであれをいただいても貼ってくれる所を探すのに苦労しています。そこで小さいサイズやフライヤーサイズなどもあるとホテルに置いて宣伝することも出来るかと思います。」

実行委員「大きいサイズを減らしてでも増やした方がいいですね。来年のTシャツも既にデザインを考えていて、20という数字を大きくしましょうという話が出ています。」

参加者　ボードに書きながら説明。

「レースのことですが、マリリンカップのコース取りについて少しホワイトボードに書かせていただきますね。ここに座間味島があって、嘉比、安慶名敷、安室があって、安慶名敷の横を通るというルートですが、安慶名敷のここがシュノーケリングスポットになっています。今までは気にならなったのですが、今年は天気が良かったのもありシュノーケリングの観光客が結構沖に出ていました。それと去年も一昨年もそうでしたがマリリンカップに出ないサバニがこの辺りにアンカーを打って応援していますね。それがレースに参加してチンしているのかなと勘違いするような感じです。今年はここに海水浴客が居て危ないからこっちに寄れと言ってくれていたのですが最初は何と言っているかわからなくて、ここのコースも狭くなりますよね。その時は他の艇と競っていて2艇同時に通過するような形になって、海水浴客とニアミスした感じになってしまいました。海想さんの船が来年も同じことをしてくれるのであればこっちに来てもらってこの間で遊んでもらう、船はこっち側を通るという形にするか。」

実行委員「安慶名敷にあまり近寄らない方法を考えるか、安慶名敷の下を通るかですね。」

源丸「海想チームとの調整も必要ですし、シュノーケリングのお客さんの対策も考えた方がいいかなと思います。」

実行委員「例えばあそこに一個ブイを打つとかですかね。」

座間味事務局「ブイが打てるかどうかはわからないですね。ダイビングのポイントがありますし、潮で流れてサンゴに当たってダメージを与えたと後で言われる可能性もありますので、簡単には決められないです。」

源丸「去年やって危ないなと思ったのでお願いします。」

実行委員「安慶名敷の角の辺りもダイビングポイントですよね。」

源丸「ここが浜なのでシュノーケリングのお客さんが見ていてわからないですよね。ダイビング艇のようにショップ側がコントロールしているお客さんじゃなくて勝手に来て遊んでいる感じですし。」

実行委員「それについては3月？の説明会の時までに結論を出しておきますね。ありがとうございました。どこかのチームからドローンを飛ばさせてくれという案もありました。ただヘリが飛んできたりすることもあるので危険ですね。」

座間味事務局「規定は無いですが、サバニの時は飛ばさないように村としては告知しています。」

実行委員「古座間味があって、ここに灯台がありますよね。渡嘉敷を越えたらいいよ、というのはどうでしょう。サポートボートから自分達の船を撮りたいという意見もありました。ただヘリもあるし、もし何かあったらまずいので検討しますのでということで一度お断りしました。自分達の船を撮りたいという人は、渡嘉敷を越えてからであればみんなバラバラの位置になっているので、それも有りかなと思います。」

実行委員「ドローンについては3,4年前から問い合わせがあるのですが、お断りしていますね。」

実行委員「30日の潮は、11時32分が最大干潮で38cmぐらいですからそんなに大きい潮じゃないですね。中潮の中でも小さいですね。満潮は18時なのでレースは終っています。」

高江洲「その他質問はありますでしょうか。」

実行委員「以前は個々に事務局などに意見が来ていまして、意見交換会を開いたらどうだろうと思ったのですが、ここにきてルールについての意見等も落ち着き、出席してくださる皆様からの意見も落ち着いて来て、ここ数年このぐらいの人数しか出席していただけていないのが現状ですが、わざわざお越しいただいて意見をいただけるのは有難く、すごく助かりますが、今後も意見交換会は必要でしょうか？

個々に意見をいただいていくという方法もありますが、とかく収拾が付かなくなるので、皆様とこうして議論しあうのはどうでしょうか。本当は9月とか10月に意見交換会が出来ると記憶が新しくて良いのですが、村はちょうど忙しい時期で、11月になってしまうのですけど…ね。」

参加者「フェリーや高速船の増便とかは出来ないですか？渡嘉敷のフェリーは50万で臨時便を出すことが出来ますよね。」

座間味村事務局　糸嶺「距離の問題がありますね。渡嘉敷ならチャーターした場合もすぐ帰って来られるのですよ。」

参加者「座間味に入りたくても入れない人が居るじゃないですか。」

糸嶺「入ってきても宿泊施設が無い、といったときにどうするか。」

実行委員「村内航路の臨時便を出してもらって阿嘉島に泊まってもらうのはどうでしょうか。阿嘉島にもお金が落ちる訳ですし。」

参加者「今クイーンが朝と夕方なのでその間にもう1便出られたらよくないですか？」

実行委員「6月は無いですね。7月ならありますが。」

座間味村事務局　糸嶺「持ち帰って検討させていただきますね。」

実行委員「10年ぐらい経つのですが、皆さんに協力してもらってビーチクリーンをやったじゃないですか。最初の頃はゴミがたくさんあったのですが、今は殆ど無くなったじゃないですか。それも続けて行きたいですね。」

参加者「別の所もビーチクリーンをやったらどうですか？」

実行委員「その日は前夜祭などもあって忙しいので分散させると難しいですね。」

参加者「増便で思い出したのですが、ビーチからバスが出ていますよね。このバスをもう少し増やせませんか？ビーチクリーン後で疲れているのに歩いて帰る人が結構居ます。」

座間味村事務局　糸嶺「運転する人が居ないので難しいですね。普通の時間帯に出る物に加えて他の業者に運んでもらったりしているので、現状が最大だと思います。ビーチクリーンの時間帯が船の時間帯と被っていて、島の業者に頼むことも難しいので。」

高江洲「他にご質問はありますか？」

参加者「駄目元ですが…、伴走船を一晩那覇に置けるスペースが欲しいです。島のチームだと到着後伴走船を島に戻して、フェリーで那覇に戻ってきてということで忙しいので。」

実行委員「三重城の漁港とかはどうですか？那覇市を通じて交渉してみましょう。保安庁の場所を借りることが出来るとベストですね。」

高江洲「他にご質問はありますか？」

実行委員「阿慶座美陽さん、サバニの時、阿嘉の宿の混み具合はどうですか？」

阿慶座美陽「サバニ関係の宿泊者はあまり居ないですが、サンゴの産卵もその辺りなので6月20日以降はダイバーで込み合っていて、その時期はすぐ埋まってしまいますね。更に7月になるとトップシーズンで宿の値段が上がるのでそこを狙ってくる人も居ます。前もって10月や11月に予約すればなんとかなりますが、村内航路や伴走船が必要になります。」

実行委員「宿についてもっと早く予約するよう周知した方がいいですね。座間味のキャパシティは増えていますか？」

谷口「高齢化の影響で廃業する所もあるので減っていますね。」

高江洲「他に何かご質問はありますか？無ければ終了させていただきますがよろしいでしょうか。第20回サバニ帆漕レースの説明会は、3月の開催は厳しいそうなので4月にさせていただきます。本日の議事録はホームページに掲載しますが、回答は4月の説明会でさせていただきます。これで第20回サバニ帆走レースに向けての意見交換会を終了させていただきます。皆様ありがとうございました。」